2. 講演会　今年度1回実施する.
テーマ・講演者については別途決定する.
3. 普及活動　適宜実施する.
4. その他
5. 支部役員と本部評議員について
別表のとおり.

4. 昭和57年度収支予算書

自　昭和57年3月1日　　至　昭和58年2月28日

収入		支出	
科目	金額	科目	金額
前期繰越金	395,075	会議費	60,000
本部交付金	242,000	講演会費	70,000
参加費	20,000	研究会費	70,000
		通信費	30,000
		交通費	10,000
		事務費	10,000
		予備費	30,000
		次期繰越金	377,075
合計	657,075	合計	657,075

5. 昭和57年度北海道支部役員

支部長　紺野功一(北電)
運営委員　沼田　久，樋口　透(小樽商大)，浅利英吉(東海大)，加地郁夫，大内　東(北大)，三浦良一(旭川工専)，天野豊治(道工大)，村上　融(国鉄)，中山道夫(北電)，中野裕宇(北海道ビジネスオートメーション)，関　正治(自短大)
幹事　関口恭毅(北大)，斉藤祥生(北電)
監事　土屋静夫(電々)

環境システム

日時：6月16日(水)18:00～20:00　場所：日科技連
出席者：5名　発表：蔵野正美（千葉大）マルコフ過程の適正制御について

推移確率行列が未知の場合のマルコフ決定過程の研究は種々の見地（たとえばゲーム論的，最尤法，ベイズ的方法で行なわれている．ここでは学習政策を定義して，学習政策と最適政策との関係を調べた．

予測とその周辺課題

• 第25回　日時：6月16日(水)18:00～21:00　場所：早大システム研　出席者：12名　議題：TIMS 文献輪読

(1) ARIMAモデルによる多品目在庫量の予測技法　村中　聖（運輸調査局）

個々の品目の予測において，1つ1つ単独に予測するのではなく，品目の全体量の予測と，個々の品目の全体に対する割合の予測とその相関関係とに分割して，ARIMAモデルを適用した場合を展開している．

(2) 直感予測　浪平博人（ブリヂストンタイヤ）

直感予測の陥りやすい性質（非回帰性，過信効果等）を示し，なるべく精度を上るための手順を提案している．当面の問題のみを内的に考えるのではなく，その問題に関連する関連クラスの情報を利用することが．直感予測の精度向上に役立つことを示している．

政策問題

• 5月例会　日時：5月15日(土)14:00～17:00　10名
場所：三菱総研会議室(タイムライフビル)　議題：公開鍵暗号系の開発　講師：細貝康夫（三菱総研）

情報システムの発展により，通信回線を経由して伝送される情報の増加と並行して，いろいろな知的犯罪も増加している．これを防御するため暗号化手法による対策がとられるが，慣用暗号系と公開鍵暗号系が用いられる．講師が協同システム㈱に出向中従事した，公開鍵暗号系の解説と，これの用いられる市場およびこの発展の方向について論議した．

• 6月例会　日時：6月19日(土)14:00～17:00　14名
場所：三菱総研会議室(タイムライフビル)　議題―1　合意統合手法の実践について　講師：今村和男(防衛大)

地方都市行政の内で，いかに市民の要望の合意統合を計っていくかのケーススタディをY市を例に報告した．

議題―2　経営力指標について　講師　高橋明良（三井情報開発）

通産省企業行動課が，慶大清水龍瑩教授の指導のもとに企業経営の実証分析を昭和49年から実施している．報告書は『経営力指標』として，昭和51年，52年，53年，54年，56年度のものが出版されているが，この研究に参加している高橋氏が出席し，この調査・分析のねらいと研究の経過を解説した．この報告について企業の現実の問題や手法をめぐっての熱心な討論が行なわれ，参加者はそれぞれに充実した土曜日の午後の時間をすごした．

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．